

第二十回

解説

# 京の会

鈴木 多美

(イヤホンガイド解説者)

## 妹背山婦女庭訓

金殿の段

浄瑠璃 竹本 越京

三味線 鶴澤津賀花

二〇二二年十月九日(日) 午後二時半開演

(二時開場/三時五十分終演予定)

西池袋 自由学園明日館講堂

TEL 03 (3971) 7535

入場料(要予約) 二千五百円 (全自由席)

※当日売りはございません



竹本越京

©福田知弘

チケットお申込み・お問合わせ TEL 090 (3809) 0516 竹本



koshikyo.ketai140703@ezweb.ne.jp

いもせやまおんなていきん  
妹背山婦女庭訓 金殿の段

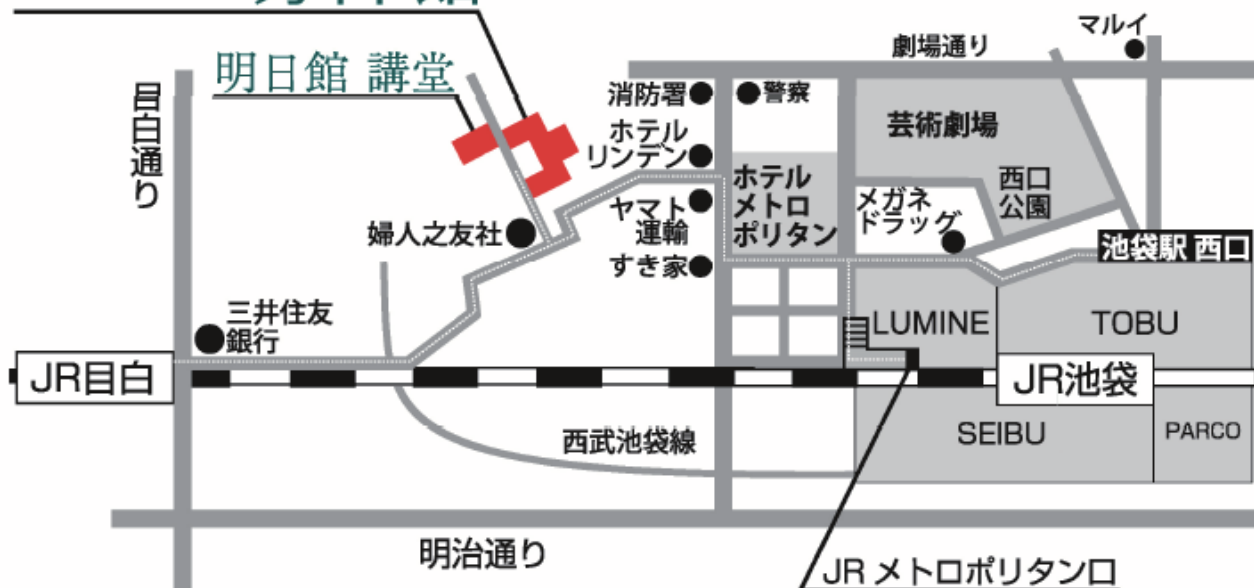
「解 説」明和八年（一七七二）一月竹本座初演で作者は近松半二ほか。閉鎖の危機にあつた座の衰運を一挙に挽回するほどの大当たりを取った。蘇我入鹿は、占いにより母が白牝鹿の生血を服用して生まれたため、爪黒の鹿の血と、疑念や執着心の相が表れた女の血を混ぜて鹿笛に吹き吹くと、鹿の本性を顕し力を失うという宿命を持つており、この方法で入鹿を滅ぼそうとする周囲の人々の姿が各段に描かれている。

「あらすじ」七夕の夕べ、三輪の杉酒屋の娘お三輪は、隣家の烏帽子折求馬を高貴な姫（実は入鹿の妹）と争い、姫の後を追う求馬の裾に取り付けた苧環の糸をしるべに入鹿の御殿に入り込む。姫の恋敵と悟った官女たちにはさんざん弄ばれたお三輪は、激しい嫉妬に駆られて奥へ駆け入ろうとするところを、藤原鎌足からの使者としてやはり御殿に入り込んでいた金輪五郎に刺される。五郎は、入鹿を滅ぼすのに必要な疑着の相がお三輪に表れていたもので不憫ながらも手にかけてと語り、求馬は実は鎌足の長男藤原淡海と明かす。お三輪は恋しい人の役に立てた事に満足して死んでいく。

新型コロナウイルス感染拡大予防のためのお願い

- \*来場前に検温をし、37.5℃以上の発熱のある方、体調のすぐれない方は来場をお控えください。既にチケット代を払い済み済みの方には後日返金させていただきます。
- \*入場の際は、マスクの着用、手指の消毒をお願い致します。
- \*客席には間隔をあけて着席し、会話はお控えくださいますようお願い申し上げます。
- \*受付等のスタッフはマスク、またはフェイスシールドを着用致しますのでご理解の程をお願い申し上げます。
- \*出演者への面会・差し入れもお控えくださいますようお願い申し上げます。
- \*開演中も換気のため、入り口ドアならびに窓を開放致しますので、外部の音が聞こえる場合がございます。

自由学園 明日館



J R池袋駅メトロポリタン口より徒歩5分  
J R目白駅より徒歩7分 ※駐車場はございません。